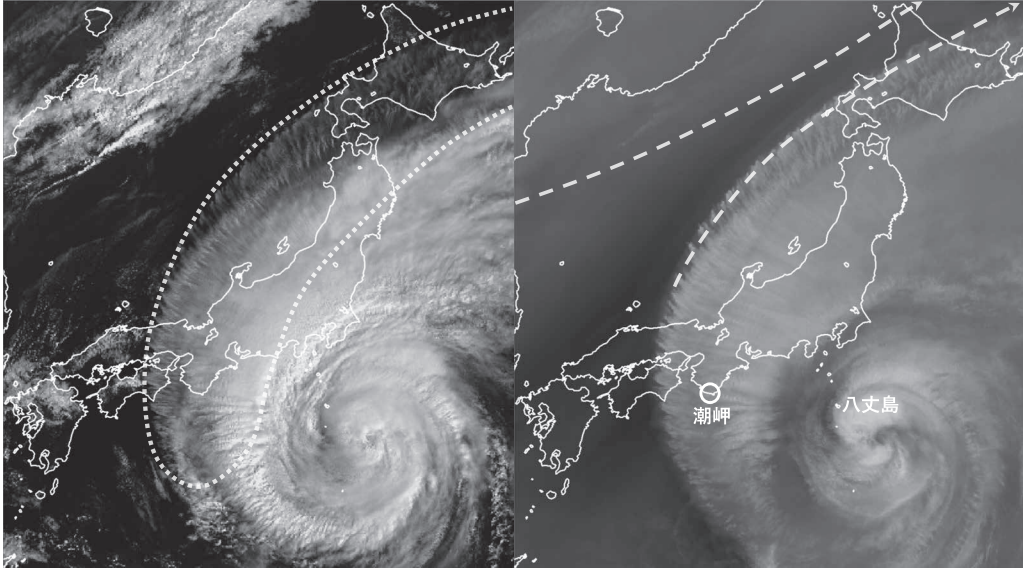




## 今月のひまわり画像—2021年10月

### 台風第16号に伴うトランスバースバンド



第1図 2021年10月1日09時（日本時間）の日本付近における可視画像（左）及び水蒸気画像（右）、左図の点線内はトランスバースバンドの出現範囲、右図の破線矢印はジェット気流の軸を示す。

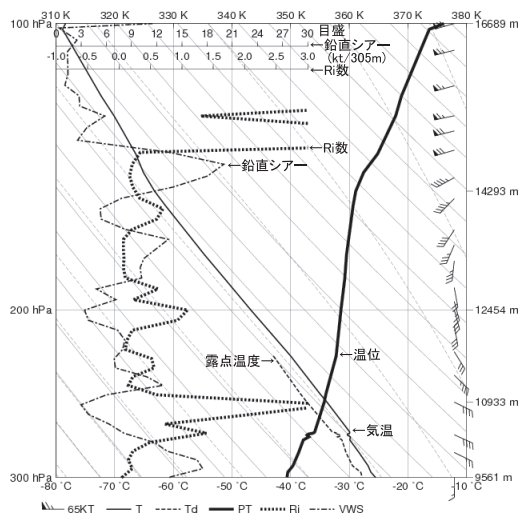
第1図は2021年10月1日09時（日本時間）の日本付近における可視画像（左）と水蒸気画像（右）である。大型で非常に強い勢力の台風第16号が八丈島の南東を北東に進んでおり、同図左の点線内にトランスバースバンド（以下、TVB）が見られる。TVBは上空の気流の流れ（同図右の破線矢印は風速80kt（1kt≒0.51m/s）以上のジェット気流の軸）と直交する波状の構造を持つ雲バンドで、ケルビン・ヘルムホルツ波（K-H波）が可視化されたものであると考えられており、TVB付近では乱気流の発生頻度が高いことが知られている。

第2図は1日09時の潮岬のエマグラムである。リチャードソン数（Ri数）は大気が中立に近くなるほど、また鉛直シアーが大きくなるほどその値は小さくなり、0.25未満のときK-H波が最も発達する。高度11.7～14.3km付近では温位線がほぼ垂直で、中立に近い層となっている。この層内で鉛直シアーが12kt/305m以上と大きいのは高度13.8km付近と14.3km付近であるが、Ri数が0.25未満は高度11.7～12.2km、13.0～13.7km、14.3km付近と複数の高度帯に見られる。

気象庁による09時の国内悪天解析図（図略）では、

TVBに伴う並から強い乱気流は高度12.0～14.5kmで解析されており、前後1時間以内に高度11.5～13.3kmで並の乱気流の報告が11通あった。

（気象庁名古屋地方気象台 原 基）



第2図 1日09時の潮岬のエマグラム。